

◆用語解説

あ

☑ IoT [p.31]

Internet of Thingsの略。今までインターネットにつながっていなかったモノをつなぐことを表す言葉。

☑ ICT [p.6]

Information and communications technology (情報通信技術) の略。情報技術 (IT) を拡張した用語。

☑ 新たな林業システム [p.27]

森林ゾーニングの目標林型に向けた森林の管理・施業方法のこと。31ページの記載を参照。

☑ イノベーション [p.6]

これまでにない新しいサービスや製品などを生み出すこと。モノや仕組み、サービス、組織などに新たな考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会にインパクトのある革新や刷新、変革をもたらすことの意味で使われている。

☑ ウッドスタート宣言 [p.41]

ウッドスタートは、東京おもちゃ美術館 (認定NPO法人日本グッド・トイ委員会) が展開している「木育」の行動プラン。全国の自治体や企業、保育所・幼稚園が、乳幼児に地産地消の木製玩具を祝い品として贈呈する事業や、子育て環境に地域材をふんだんに取り入れ木質化する事業などに取り組むに当たり、同委員会との間でウッドスタートに関する調印を行うことを「ウッドスタート宣言」と称している。

☑ AI [p.6]

Artificial Intelligenceの略。人工知能のこと。

☑ A材、B材、C材 [p.35]

A材：欠点のない直材で、主に一般製材用として用いる。

B材：小曲等のある材で、主に集成材、合板用として用いる。

C材：大曲やキズなどの欠点のある材で、主にパルプ・チップ用として用いる。

☑ SGEC (緑の循環認証会議) [p.77]

Sustainable Green Ecosystem Councilの略。日本独自の森林認証制度を行う機関。国内の林業団体・環境NGOなどにより平成15年に発足。人工林の比率が高く、零細・小規模所有者が多いといった日本の実情に即した森林及び林産物の認証を行っている。

☑ SDG s [p.6]

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

☑ FAO [p.4]

The Food and Agriculture Organization of the United Nations (国際連合食糧農業機関) の略。

☑ FAOSTAT [p.4]

The Food and Agriculture Organization Corporate Statistical Database (国際連合食糧農業機関データベース) の略。

☑ FSC (森林管理協議会) [p.77]

Forest Stewardship Ecosystem Councilの略。世界規模で森林認証を行う非営利の国際NGO。世界自然保護基金 (WWF) を中心として1993年に発足。

OJT [p.57]

On-the-Job Trainingの略。日常の仕事を通じて必要な知識・技術・技能・態度などを身に付けられるよう、意図的・計画的に指導すること。

温室効果ガス [p.4]

海や陸などの地球の表面から地球の外に向かう熱を大気に蓄積し、再び地球の表面に戻す性質(温室効果)を持つ気体。人間活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガスがある。

か

改質リグニン [p.67]

リグニンは、全ての木材に含まれ、木材の約3割を占める成分。改質リグニンは、日本固有種のスギから、リグニンを安定したまま抽出した新素材。

皆伐・再造林 [p.19]

一定範囲の樹木を一時に全部又は大部分伐採し、再び苗木を植えて森林を造成すること。

皆伐・再造林一貫作業 [p.49]

伐採・搬出作業と平行又は連続して、伐採・搬出時に用いる林業機械を地拵え又は苗木等の資材運搬に活用するとともに、伐採跡地において植生が繁茂しないうちに植栽を終わらせることで、一連の造林作業の効率化を図る作業。

カシノナガキクイムシによるナラ枯れ [p.75]

カシノナガキクイムシがナラ・カシ類等の幹に穴をあけて穿入し、体に付着した「ナラ菌」を多量に樹体内に持ち込むことにより発生する樹木の伝染病。

花粉症対策に資するスギ苗木 [p.32]

花粉の発生量が有意に少ないスギ苗木を指し、花粉症対策品種(「無花粉」、「少花粉」、「低花粉」品種として(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターが定めた基準により開発したもの及び花粉の生産に関する特性がこれと同程度のもの)のスギ苗木、並びに特定母樹から採取された種穂から生産されたスギ苗木。

官民共創コミュニティ [p.68]

新・群馬県総合計画ビジョンで示された概念で、企業や研究機関、地域の団体など様々な主体による連携を「共創」と定義し、自治体がこのような「共創」の場をつくるプラットフォームビルダーとなり生まれるつながりを「官民共創コミュニティ」と名付けている。

吸収源 [p.4]

大気中の二酸化炭素などの温室効果ガスを吸収し、比較的長期間にわたり固定することのできる森林や海洋などのこと。

強度間伐 [p.31]

収穫を目的とした一般的な間伐率(本数の30%程度)より高い間伐率(本数の40%から50%程度)による間伐のこと。

菌床栽培 [p.62]

オガクズなどの木質素材に米糠などの栄養源を混ぜた人工の培地(菌床)で、きのこを栽培する方法。

群馬県植樹祭 [p.72]

戦争で荒廃した県土に緑を復興する郷土緑化運動の一つとして昭和21年に桐生市において第1回が開催された。毎年、緑づくりや森林を守り育てる大切さを広く普及啓発し、緑豊かな郷土づくりを推進するため、県民運動の中心的な行事として、県内各市町村を持ち回りしながら春の緑化運動推進期間中に開催している。

☑ **群馬県森林ボランティア支援センター**
[p.71]

森林ボランティアの活動を推進していくために、ボランティア情報の収集と提供、指導や資機材の貸出など、一体的なサポートを行う機関。

☑ **ぐんまの木で家づくり支援事業**
[p.38]

群馬県産の木材「ぐんま優良木材」を使って住宅を新築したり、内装をリフォームする場合に、県から費用の一部を補助する制度。

☑ **ぐんま緑の県民基金事業** [p.15]

県民税均等割の超過課税である「ぐんま緑の県民税」を財源とした事業。

奥山など立地条件等が不利で、林業経営が成り立たずに放置されている森林の整備や、市町村が管理する簡易水道等の取水口の上流に位置する森林の整備、あるいは松くい虫被害を受けて藪になった森林の再生といった、森林の公益的機能を発揮するための施策を行っている。また、市町村と地域住民等との協働による、住宅や道路など生活圏に近い里山・平地林などの整備、貴重な自然環境の保護・保全、森林環境教育活動等に対して支援を行っている。

☑ **ぐんま優良木材品質認証センター**
[p.36]

群馬県内で生産される木材製品の品質及び性能の確保を図るため、一定基準を満たした県産木材の木材製品を「ぐんま優良木材」として認証する機関。

☑ **原木市場** [p.34]

素材生産業者などが出荷した原木（丸太）を一か所にまとめて販売する市場。

☑ **原木栽培** [p.62]

コナラなどの樹木を同じ長さに切った物（原木）に穴をあけて種菌を打ち込み、菌を蔓延させてきのこを発生させる方法。

☑ **構造用集成材** [p.13]

所要の耐力を目的として等級区分したひき板（ラミナ）を集成接着した物。

所要の耐力に応じた断面の大きさと安定した強度性能を持ち、大スパンの建築物の建設も可能となる。

☑ **高性能林業機械** [p.31]

従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械のこと。

☑ **公的管理** [p.21]

治山事業や保安林整備、ぐんま緑の県民基金事業といった、県などの公的機関発注の事業による森林管理のこと。

☑ **公的森林整備** [p.15]

公的管理のうち、保安林整備、ぐんま緑の県民基金事業といった、県などの公的機関発注の森林整備事業のこと。

☑ **合板** [p.13]

丸太から薄くむいた板（単板）を、繊維（木目）の方向が直交するように交互に重ね、接着した板。

☑ **コンテナ苗** [p.49]

筒状の細長い特殊な形をした容器を複数備えたコンテナで育成した苗木。ポット苗に比べて小型で軽量。活着率が良く、植穴も小さくて済み、造林コストを減らすことが可能。

さ

☑ **山地災害危険地区** [p.74]

山崩れ、地すべり、土石流が発生した場合、人家や公共施設に被害が及ぶ恐れが高い地区、また、過去に実際に被害があった地区について調査し、その危険度が一定以上の地区を山地災害危険地区としている。

サテライトオフィス [p.70]

企業本社や、官公庁・団体の本庁舎・本部から離れた所に設置されたオフィスのこと。

JAS機械等級区分 [p.19]

日本農林規格 (Japanese Agricultural Standard) による品質保証のための規格で、非破壊的方法で機械によりヤング係数を測定する等級区分のこと。曲げヤング係数により、「E50」、「E90」等と表示される。

JAS規格 [p.39]

農林物資の品位、成分、性能その他の品質、生産工程、流通工程等の規定により制定された規格のこと。

CLT [p.42]

Cross Laminated Timberの略称で、ひき板(ラミナ)を繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料。厚みのある大きな板であり、建築の構造材のほか、土木用材、家具などにも使用されている。

システム販売 [p.34]

「国有林材の安定供給システムによる販売」の略称で、森林整備に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む集成材・合板工場や製材工場等との協定に基づいて安定的に供給する取組のこと。近年では民有林と協調した出荷が進められている。

集約化 [p.13]

林業事業体などが隣接する複数の森林所有者から路網の作設や間伐等の施業を受託し、一括して行うこと。

針広混交林 [p.27]

針葉樹に広葉樹を交えた森林。

人工林 [p.12]

植栽等により造林され、造林対象樹種が半分以上を占める森林。

振動業務健康診断 [p.58]

チェーンソー等の使用により身体に著しい振動を与える業務に従事する労働者に対する健康診断。

森林環境教育 [p.70]

平成14年度の「森林・林業白書」ではじめて明文化されたものであり、森林に関する様々な活動を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めるために実施される。

森林環境譲与税 [p.41]

50ページのコラムを参照。

森林クラウド [p.53]

都道府県、市町村、森林組合等で管理していた森林情報を、クラウド上で一元的に管理するシステム。GIS機能のほか、属性情報や地図情報を管理する機能を持つ。

森林経営管理制度 [p.47]

50ページのコラムを参照。

森林経営計画 [p.46]

森林を経営管理していくため、植栽、保育、伐採、路網作設及び火災等の防止など、計画作成者が5か年間に行う施業内容を定めた計画。

森林経営プランナー [p.57]

林業経営体が厳しい経営環境下でも収益を確保し、森林所有者の所得向上にも資するよう、主伐・再造林や木材の有利販売等林業経営上の新たな課題に対応できる経営人材。

森林セラピー [p.70]

科学的根拠に基づいた森林環境での健康保持・増進の活動。

森林総合監理士 [p.50]

市町村森林整備計画の作成や適切な路網作設の方法、長期的視点に立った地域全体の森づくりの方法等を指導する技術者。フォレスターとも呼ばれる。

森林認証 [p.76]

独立した第三者機関が環境・経済・社会の3つの側面から一定の基準をもとに適切な森林経営が行われている森林又は経営組織などを認証し、その森林から生産され木材・木材製品にラベルを付けて流通させることで、持続可能性に配慮した木材についての消費者の選択的な購買を通じて、持続可能な森林経営を支援する民間主体の取組のこと。

ストーリー・ブランディング
[p.68]

製品やサービスが持つストーリー、つまり物語性を活用するマーケティング手法のこと。

スマート林業 [p.6]

生産性や安全性の飛躍的な向上、需要に応じた高度な木材生産を実現するための、地理空間情報やICT等の先端技術を活用した資源管理や施業方法のこと。

セルロースナノファイバー
[p.67]

鋼鉄の5分の1の重量で約5倍の強度を持つ植物由来の素材であり、木材等の植物繊維（セルロース）を化学的、機械的に処理してナノサイズ（1nmは100万分の1mm）まで細かく解きほぐした極細繊維状物質。

Society5.0 [p.6]

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）のこと。

素材生産経費 [p.16]

立木を伐採し、枝葉や梢端部分を取り除いて丸太にし、市場や工場等へ運搬するトラック等に積み込むまでの経費。

素材生産性 [p.46]

作業員1人が1日に平均で何m³の素材を生産したかを表すもので、全体の投入人工数で生産量を割って算出する。

た

短伐期林業 [p.27]

30年程度の短期間で皆伐と再生林を繰り返す森林施業。

地籍調査 [p.13]

主に市町村が主体となって、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、境界の位置と面積を測量する調査。

「地籍」とは、いわば「土地に関する戸籍」のこと。

チップ [p.14]

木材を小片にしたもの。主にパルプの原料として利用されるが、近年は、木質バイオマス発電の燃料に使われることが増えている。

中間土場 [p.37]

伐採現場から需要地までの距離が長い場合に、複数の伐採現場からの輸送路の接点に設けられる比較的広い集積場所のこと。

長伐期林業 [p.27]

皆伐を行わず、100年以上の長期間にわたり間伐（択伐）を繰り返すことにより大径木化を図る森林施業。

ツーバイフォー工法 [p.36]

「木造枠組壁工法」のひとつで、2インチ×4インチの角材をベースにして住宅をつくる方法。

低コスト林業システム [p.32]

傾斜が緩く、森林資源や路網が充実しているなど経営条件の整った人工林において、IoT技術を活用した高性能林業機械の導入等による素材生産性の向上と初期成長の早

い樹種の活用等による保育経費の削減により短期間での皆伐・再造林を進める施業方法のこと。

☑ **デジタルトランスフォーメーション (DX)** [p.6]

スウェーデンの大学教授のエリック・ストルターマンが提唱した概念であるとされ、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させること」であるとされる。従来使われてきた「ICTの利活用」との最大の違いは、「ICTの利活用」がすでに確立された産業を前提に、あくまでその産業の効率化や価値向上を実現するものであったのに対し、デジタルトランスフォーメーションにおいては、その産業のビジネスモデル自体を変革していくことにあるとされる。

☑ **テレワーク** [p.7]

ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。「tele=離れた所」と「work = 働く」を合わせた造語。

☑ **天然更新** [p.31]

森林の伐採後、前生稚樹や自然に落下した種子等から樹木を定着させることで、森林の再生(更新)を図る方法。

☑ **天然林** [p.31]

人工林以外の森林。

な

☑ **二次林** [p.32]

伐採や風水害、山火事などにより森林が破壊された跡に、土中に残った種子や植物体の生長などにより成立した森林。

☑ **日本貿易振興機構** [p.43]

2003年に設立され、海外ビジネス情報の提供、中堅・中小企業等の海外展開支援、対日投資の促進などに取り組んでいる独立行政法人。

☑ **NETSUGEN** [p.69]

新たなビジネスや地域づくりにチャレンジする人が集まるイノベーション創出拠点として、北関東一帯を眺望する群馬県庁32階に設置した「官民共創スペース」。

☑ **農業生産工程管理 (GAP)** [p.61]

農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のこと。

は

☑ **バックキャストिंग** [p.24]

目指す将来の姿や目標を定め、そこから現在の課題などの現状を分析し今何をすべきかを考える方法。

☑ **一人親方** [p.55]

労働者を雇用せずに自分自身と家族などだけで事業を行う事業主のこと。

☑ **不在村所有者** [p.46]

森林所有者であって、森林の所在する市町村の区域に居住、または事業所を置く者以外の者のこと。

☑ **フードマイレージ** [p.63]

食料の総輸送量・距離のことで、食料の生産地から消費者の食卓に並ぶまでの輸送にかかった「重さ×距離」で表される。

☑ **プラットフォーム** [p.68]

周辺よりも高くなった水平で平らな場所をさす英語。官公庁の施策における「環境(整備)」、「基盤(づくり)」、ソフトウェアやシステムにおける「動作環境」、作業をするための「足場」の意で用いられる。

プロダクトアウト [p.27]

企業側の技術や思想、販売計画に基づいて製品やサービスを市場に出すこと。製品ありきの販売戦略。

ペレット [p.65]

乾燥した木材を細粉し、圧力をかけて直径6～8mm、長さ5～40mmの円筒形に圧縮成形した木質燃料で、主にストーブやボイラーの燃料として利用されている。

保安林 [p.31]

水源の涵養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林のこと。保安林では、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されている。

保育経費 [p.16]

苗木植栽後から伐採までの、獣害対策、下刈、除伐、枝打ち、間伐等の経費。

萌芽更新 [p.32]

樹木の伐採後、残された根株の休眠芽の生育により森林の再生を図る方法。

ほだ木 [p.60]

きのこ類の生産に用いる、きのこの種菌を接種した原木のこと。

ま

マーケットイン [p.27]

消費者のニーズを理解して商品を開発し、消費者が求めているものを求めているだけ市場に出すこと。顧客ありきの販売戦略。

マテリアル利用 [p.67]

バイオマスを原材料として利用すること。木材のマテリアル利用には改質リグニンやセルロースナノファイバーなどがある。

未相続森林 [p.46]

過疎化や少子高齢化が進む中、相続に伴う所有権の移転登記がされていない森林のこと。森林所有者の一部が不明な場合（共有者不明森林）や森林所有者の全部が不明な場合（所有者不明森林）がある。

緑のインタープリター [p.71]

森林や緑づくりに関する広範な知識・技術を有する指導者であり、自然観察やネイチャーゲーム指導等を行っている。

「緑の雇用」事業 [p.55]

未経験者であっても林業に就き、必要な技術を学ぶことができる制度。林業経営体に採用された人に対し、講習や研修を行うことでキャリアアップについても支援する。

民有林 [p.12]

国が所有する国有林以外の森林で、個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれる。

木育 [p.41]

幼児期から原体験として木と関わることで、木に対する親しみや理解を深め、ひいては木を生活に取り入れたり、森づくりに貢献したりすることのできる人の育成を目指す活動のこと。

木材産業産出額 [p.35]

経済産業省工業統計調査の都道府県別、産業中分類別製造品出荷額等（従業員4人以上の事業所）における木材・木製品製造業（家具を除く）の出荷額のこと。

 木材市況 [p.53]

原木市場での相場や取引の状況。

 木材需給マッチングシステム
[p.27]

素材生産現場から、製材加工、製品販売までの木材流通データをクラウドシステムにより管理し、需要に応じた生産を行うシステムのこと。

 目標林型 [p.30]

森林の管理を適正に進めるために設定する目標とする森林の姿のこと。森林にどのような機能を主に求めるかに応じて設定する。木材生産を目的とした人工林では、想定する主要な用途から決定される。

や

 山土場 [p.37]

伐採現場で丸太を一定の長さに切った後に搬出してきた木材を積み上げる比較的小さな林内の集積場所のこと。

 幼齢木 [p.46]

林木が小さく、樹高の成長が盛んな林分。通常、成長の早い樹種では10~20年、遅い樹種では30年生までを幼齢林として区分している。

ら

 林業作業士 [p.55]

緑の雇用（林業作業士研修）による集合研修と職場内研修（OJT）を組み合わせた3年間の研修で、森林整備や素材生産、運搬等の林業作業と、林業労働安全衛生に必要な知識、技術・技能を習得した者。フォレストワーカーとも呼ばれる。

 林業産出額 [p.14]

林業生産の実態を金額で評価することにより明らかにし、林業行政の推進等のための資料を整備することを目的として集計され、各林産物生産量（木材統計調査、特用林産物生産統計調査等から得られる品目別生産量）に価格（木材生産にあっては樹種ごとの山元土場価格、木材生産以外にあっては庭先販売価格）を乗じて推計された額。

 林業従事者 [p.23]

森林組合や民間の林業会社の職員として、造林や伐採、搬出など、林業に従事する者。

 林地台帳 [p.53]

林地所有者や境界測量状況等の情報を地番ごとに整理したもので、市町村に整備されている。

 レジリエンス [p.3]

Resilience。「弾力」や「復元力」、「回復力」のこと。

わ

 ワーケーション [p.7]

「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)を活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。

◆用語解説

●群馬県森林審議会 委員名簿

(R2.8.2~)

| 氏名 | 職業・役職等 | 備考 |
|--------|------------------------------------|------|
| 新井 小枝子 | 群馬県立女子大学文学部教授 | |
| 市川 平治 | 烏川流域森林組合長 | |
| 鈴木 春美 | マイタケ生産者・元JA全国女性組織協議会長 | |
| 須藤 昭男 | みどり市長 | |
| 外山 京太郎 | 川場村長 | |
| 中澤 恒喜 | 東吾妻町長 | |
| 永井 芳郎 | ぐんま優良木材認証工場連絡協議会長 | |
| 萩原 香 | 有限会社萩原構造計画事務所取締役 | |
| 原 秀男 | 下仁田町長 | |
| 平方 宏 | 一般社団法人群馬県木材組合連合会長 | 会長代行 |
| 福田 稔子 | 群馬県環境アドバイザー・元NPO法人地球温暖化防止ぐんま県民会議理事 | |
| 宮寄 文恵 | 弁護士 | |
| 森山 昌人 | 関東森林管理局計画保全部長 | |
| 八木原 勇治 | 群馬県森林組合連合会長 | 会長 |
| 山田 ひろ子 | 群馬県農村生活アドバイザー・元あがつま農村女性会議会長 | |

●群馬県森林・林業基本計画推進協議会 構成員名簿

(R2.6.19~)

| 団体名 | 職名 | 氏名 | 備考 |
|------------------|--------|--------|-----|
| 群馬県森林組合連合会 | 代表理事会長 | 八木原 勇治 | 会長 |
| 多野東部森林組合 | 理事兼参事 | 浦部 秀一郎 | |
| 桐生広域森林組合 | 総務部長 | 栗原 和人 | |
| 群馬県木材組合連合会 | 会長 | 平方 宏 | 副会長 |
| ぐんま優良木材認証工場連絡協議会 | 会長 | 永井 芳郎 | |
| 群馬県木材青年協会 | 会長 | 平田 公平 | |
| 群馬県素材生産流通協同組合 | 専務理事 | 新井 隆夫 | 副会長 |
| 〃 | 副理事長 | 堀川 正一郎 | |
| 〃 | 副理事長 | 小菅 正治 | |
| 群馬県きのこ振興協議会 | 会長 | 中山 範雄 | |
| 関東森林管理局 | 計画保全部長 | 森山 昌人 | |
| 群馬県環境森林部 | 部長 | 岩瀬 春男 | |

●群馬県森林・林業基本計画策定経過

| | 日付 | 項目・件名 |
|----|------------|------------------------------------|
| 1 | R1.6.21 | 令和元年度第1回群馬県林業再生プロジェクトチーム会議 |
| 2 | R1.6.28 | 令和元年度第1回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議 |
| 3 | R1.7.2 | 令和元年度第1回群馬県森林・林業基本計画推進協議会 |
| 4 | R2.1.15 | 令和元年度第2回群馬県林業再生プロジェクトチーム会議 |
| 5 | R2.1.29 | 令和元年度第2回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議 |
| 6 | R2.2.13 | 令和元年度第2回群馬県森林・林業基本計画推進協議会 |
| 7 | R2.3.19 | 令和元年度第3回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議【書面開催】 |
| 8 | R2.4.14・15 | 令和2年度第1回群馬県森林・林業基本計画推進協議会【書面開催】 |
| 9 | R2.6.24 | 令和2年度第1回群馬県林業再生・次期計画策定プロジェクトチーム会議 |
| 10 | R2.7.6 | 令和2年度第1回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議 |
| 11 | R2.7.22 | 令和2年度第2回群馬県森林・林業基本計画推進協議会 |
| 12 | R2.8.28 | 令和2年度第1回群馬県森林審議会 |
| 13 | R2.9.8 | 令和2年度第2回群馬県林業再生・次期計画策定プロジェクトチーム会議 |
| 14 | R2.10.2 | 群馬県議会環境農林常任委員会へ骨子(案)の説明 |
| 15 | R2.10.12 | 令和2年度第2回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議 |
| 16 | R2.12.17 | 令和2年度第2回群馬県森林審議会 |
| 17 | R2.12.18 | パブリックコメント募集(～1.18) |
| 18 | R2.12.21 | 群馬県議会環境農林常任委員会へ計画(素案)の説明 |
| 19 | R2.12.23 | 令和2年度第3回群馬県森林・林業基本計画推進本部会議【書面開催】 |
| 20 | R3.1.28 | 群馬県議会環境農林常任委員会へ計画(素案)に対する意見募集結果の説明 |
| 21 | R3.3.19 | 群馬県議会議決 |